

寺井町内会長・町会役員とのタウンミーティング

日 時 令和7年4月19日（土）17時～18時15分

会 場 寺井町多目的ホール

参加人数 15人

1) 開会

2) 寺井町会長 ご挨拶

3) 市長 市政報告

○令和7年度能美市当初予算

・市長選があったことから、令和7年3月議会で義務的経費や継続した予算のみを上程し、承認を受けた。骨格予算ではあるが、一般会計の総額は過去最高額の282億円である。新しい施策等に関する肉付け予算は、6月議会で上程する。

○令和7年度事業・施策／方針・目的《骨格予算》

・事業・施策の7本柱を5つの方針と目的のもと、全て移住・定住の促進につながるように取り組んでいる。

・能美市では、自然減を社会増がカバーしており、今のところ人口を維持している状態であるが、いかにして、自然減を食い止め、社会増につなげていくかが重要である。

○防災・減災対策の強化

・行政の最大の役割は市民の生命と財産を守ることであり、まずは防災・減災対策の強化

を一丁目に掲げて取り組んでいく。

- ・令和6年能登半島地震の被害に対して、復旧を進めている。被災した下水道暗渠の復旧の費用も計上し、今後順次直していく。
- ・大雨や地震の被害を風化させないよう、防災センターの一部をリニューアルした。
- ・防災士の皆さんと令和7年度は研修を重ねていく。
- ・個別避難計画の策定を中山間地域から進めている。
- ・子どもたちを交通事故から守るため、今度は辰口中央小学校の周辺を整備する。
- ・化学消防ポンプ自動車、除雪トラックの購入、市内小中学校の防犯カメラの増設を行う。

○インクルーシブシティの深化

- ・市内の公民館全てにフリーWi-Fiを整備し、多世代交流の拠点となるよう取り組んでいる。
- ・福祉見守りあんしんマップをデジタル化し、約3,400の方が登録している。将来的には、電子カルテや処方箋と一体化予定である。
- ・デジタル地域通貨「能美トチポ」を導入した。電子マネーの利用促進のため、のみ応援特典券等での活用を考えている。登録のメリットとして、のみヘルスやSPOBYでポイントをつけ、それを買い物等で使ってもらえるようにしているが、まだ登録数が少ない。
- ・令和7年度はデジタル公民館を更なる多世代間交流の拠点にするとともに、オンライン診療について、根上地区の町内会を新たにモデル地区として選定し、実施していく。
- ・生活支援を目的としたライドシェア「ノルノミ」を国造地区周辺の10町会を対象にモデル的に実施している。1回あたりの料金は、のみバスの回数券5枚、約500円である。
- ・スマート物流も実施しており、電話やインターネットで注文した商品を、商品代プラス500円で届けてくれる。
- ・地域共生交流館を世代や属性をこえた交流の場等とするため、新築工事を予定している。
- ・デジタル採点ソフトの導入で先生の働き方改革を行うとともに、市の基幹業務システムを全国で統一・標準化させるため、標準準拠システムへの移行を行う。
- ・子育て支援として、給付金の支給や相談窓口の充実を行う。
- ・予防接種の種類を拡充し、がん検診の支援のメニューを充実させた。

○知名度・魅力度の向上

- ・移住や観光、企業誘致を進めるために、まずは能美市の地名や特長を知ってもらおうと、

知名度・魅力度の向上に取り組んでいる。

- ・能美根上駅の旧駅務室を飲食を提供するスペースに変え、そこの従業員に電車の乗り降り等のサポートもしてもらえないかと考えている。

- ・首都圏でのPRとして、都内の大型ビジョンの活用を検討しているほか、東京大学の学園祭で能美市ブースを設置する予定である。

- ・UIJターンを促進するため、様々な補助制度を設けているほか、寺井高校と小松大谷高校の学生に市内企業や施設の紹介を行ってきた。今年度は市民が通っている全学校を対象に大々的に開催したい。

- ・寺井高校への入学希望者を増やし、ひいては能美市の人財を確保しようと、学校給食センターの給食を寺井高校に提供している。

- ・能美市誕生20周年を迎え、1年を通してイベントや事業を計画している。

- ・20周年を盛り上げるため、昨年を引き続き、ふるさと愛醸成事業を実施する。

- ・のみ応援特典券第7弾の実施、古くなった市内3中学校吹奏楽部の楽器の購入を行う。

○エコシティ能美を創造

- ・能美市はSDGs未来都市に選定され、「ゼロカーボンシティ」宣言をしている。CO₂を2030年までに2013年の排出量の半分にしなければならないが、あと5年しかない。

- ・環境フェスタで、カーボンニュートラルの必要性をお伝えしようと計画している。

- ・農業振興も重要であり、デジタルの力を使って持続可能なもうかる農業にしていきたい。

- ・公共交通の利用を増やすため、能美根上駅の駐車場を拡張し、電子マネーやカードでも料金の支払いを可能にした。

○持続可能な行財政改革

- ・骨格でありながら、過去最高額となった理由の一つに人件費がある。国の方針で会計年度職員の給与が上がった。また標準準拠システムの導入や施設の改修費用等もあげられる。

- ・市役所では、ペーパーレス、フリーアドレスに取り組んでいる。

- ・事業・施策をスクラップ・アンド・ビルドし、財源を確保するとともに市民サービスの向上を図り、30年、50年続く能美市を目指す。

- ・第3次総合計画の策定を進めていかなければならない。市民満足度調査を実施し、市民の皆さんの意見を反映させていきたい。

3) 質疑応答、意見交換

質問・意見 1

【参加者】 敬老会を能美市でまとめるという話であったが、従来の地区ごとは残しながら、まとめるということか。

【市長】 今のところその方向で考えており、最終の調整を老人クラブの皆さんと行っている最中である。

質問・意見 2

【参加者】 寺井高校の給食について、2千812万円の予算が計上されていたが、これは初年度だけで、次年度以降も必要な金額は生じるのか。給食を無償提供しているのか。

【市長】 給食代は払ってもらっているが、それだけでは賄いきれなくて、能美市から少し補填しており、その金額である。

質問・意見 3

【参加者】 観光的な事業が説明の中にはなかったが、どうなっているのか。

【市長】 魅力度・知名度の向上は、能美市に来てもらう施策であり、例えばデジタルサイネージを使って能美市の観光地やそのほかの魅力を宣伝する。このほか、東京大学の大学祭や、21世紀美術館で行うぐいのみ展でも能美市の観光資源を紹介し、能美市に来てもらうことに繋げていきたいと考えている。

質問・意見 4

【参加者】 町中に空き家や空地が目立つ。それを有効に活用する方法はないのか。

【市長】 寺井町に限って言えば、空地ができればあつと言う間に埋まってしまう。問題は空き家である。行政が把握している市内の空き家の件数は約750件であるが、それを活用しても良いと持ち主が思って、空き家バンクに登録しているのは、10件しかない。持ち主に

さらに活用してもらえるように、相談体制を充実させたり、寄附してもらえれば市で全て処理するという制度を作ったりしている。空き家にも税金がかかっており、年に1度、納税の通知を出すときに、制度のお知らせをしている。しかし結果的に空き家バンクに登録されているのは、10件という状況である。

質問・意見5

【参加者】農業をやっている人が少なくなっている。末信や牛島は農地が大きくやりやすいが、寺井は点在していたり、小さかったりする。農地を住宅地にすることは難しいと聞いたが、点在している農地をまとめて優良農地にすることはできるのか。

【市長】国は農業を守ろうとしており、農地を宅地にすることはハードルが高い。農業を守るため、デジタル技術を使って、今まで熟練しかできなかった田植えや代掻きを機械を使って行ったり、農地を集約し、大規模農家をお願いして、一連で行ったりしていくことも重要である。田植え機や稲刈り機もデジタル化すると大型化し、今までだと軽トラに載せて運んでいたが、2t車でないと運べない。農地が点在していると、稲刈りしている時間よりも移動する時間の方が長くなり、なかなか効率化ができない。デジタル化とあわせて、集約化にも取り組もうとしている。

質問・意見6

【参加者】農業には機械が何台も必要で、そのうちの1台が壊れたから、農業をやめるという話を聞いた。

【市長】稲刈りは天気の良い日にしか行わず、時期も秋と決まっている。機械のシェアを検討しているが、季節や使う日が集中するので、ハードルが高い。田植えは、これまで稲で植えていたが、粒で植えることも始まっている。これによって、夜、田植えができるというメリットがある。稲刈り機も技術が進歩し、前はきれいに並んでいないと刈れなかったが、最近は多少歪んでいてもきれいに刈れるようになった。メーカーとデジタルの力を使って効率化できないか考えながら取り組んでいる。

質問・意見7

【参加者】能美市には古墳がいくつかあるが、整備事業は国が主導でおこなっているのか。今から20年以上前には、豊美保育園の園児たちが寺井山古墳に遠足に来ていたが、今は整備されていないので、来ない。

【井出市長】埋蔵しているものを発掘して、調査するのが基本であるが、それ以外で能美市がやっているのは、例えば木の伐採である。和田山、末寺山、秋常山は以前と比べて相当きれいになっている。寺井山もきれいにしているつもりであり、以前の写真と見比べてもらえると、能美市の古墳がきれいになっているのか一目でわかると思う。和田山、末寺山古墳にさらに多くの人に来てもらおうと、能美ふるさとミュージアムを建てた。ふるさと歴史の広場も大幅にリニューアルし、滑り台を1台から2台に増やした。今日も多くの人で賑わっている。古墳の魅力だけでなく、古墳の周りにあるものを活用していくことで、古墳のまち能美市をPRして、多くの人に来てもらえればと思っている。

4) 閉会